

私と果物

栃木県宇都宮市立岡本小学校 五年 関口 葵

私は果物が大好きです。私の住んでいる栃木県では、比較的畑が多く、美味しい果物が豊富にあります。私自身も、おばあちゃんの家の庭でぶどうや柿を育てていたり、親せきからキウイフルーツをもらったりして、常に食卓には果物があり、とても恵まれています。

この前、愛知県に住むいとこがみかんを一箱送ってくれました。そのみかんは、あざやかなオレンジ色で、いい香りが食欲をそそり、一粒一粒に甘い果汁がぎゅっと詰まっていて、まさに格別です。一度食べたなら、止まらなくなつて、何十個もあつたのが一週間ほどで食べ終わってしまいました。

また、学校で配布された食育副読本を読んで、改めて果樹農業の大変さを知りました。みかんの栽培では、暑い夏に約千五百ものみかんをいっていくという過酷な作業があります。でも、その作業のおかげで、全てのみかんに日があたり、傷一つない、形も味も完璧の極上みかんに育つことが分かりました。そして、たくさんの方の苦勞をしてでも、美味しいみかんを作りたいという農家の人の気持ちに感動しました。

更に、農業の仕事は、いかに天気を味方につけられるかが大切になっています。太陽の光や雨を受けることによって、丈夫に成長していくみかん。一方で、最近の異常気象により、台風で実が落ちてしまつたり、大雨でひどく傷んでしまつたりと、みかんを出荷できない悲しい場合もあります。

みかんだけではなく、日本の果物は時代とともに日々進化してきました。これからは、予測不能な天気とどう付き合っていくかがより一層重要になっていくと思います。今までのように、美味しい果物をずっと生産し続けるとともに、今後も試行錯誤しながら良い方向へと進歩してほしいです。